

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価		岐阜県立関高等学校		学校番号	35
1 学校教育目標	知・徳・体に調和のとれた豊かな人間性を持ち、「高い志」とグローバルな視野をもって、将来、地域社会の発展のために貢献できる有為な担い手を育成する。				
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）		
	・高校時代に確かな学力を身につけ、自分の将来を設計できる生徒（日々錬磨）・課題解決力やコミュニケーション力を身につけ、どんな困難にも立ち向かえる生徒（進取の気概） ・豊かな人間性を身につけ、人の立場を理解し、思いやりある行動がとれる生徒（至誠の心） ・グローバル社会にふさわしい素養を身につけ、多文化共生をめざすことができる生徒（グローバルな視野）	・教育課程の編成や授業改善により「思考力」「判断力」「表現力」「コミュニケーション力」を伸長し、多様化する大学入試制度等に対応した進路指導を実現（Study hard!） ・生徒会活動・部活動及び学校行事への主体的参加を促し、集団における個の役割を自覚させるとともに、個を活かす集団づくりを支援（Work hard!） ・学校生活の中で、互いを尊重できる人間関係の構築と、感謝の気持ちを大切に行動の具現化を図り、生徒の心身の健康保持のため、家庭との連携を強化（Be polite!） ・総合的な探究の時間で取り組むSDGsの実現に向けた課題解決型研究を通して、グローバルな視野をもち、多分野で活躍できるひとを育成（Be global!）	・高校時代に基礎学力を向上させ、卒業後は大学等に進み、より深く学びたいと考えている生徒 ・自ら課題を発見し、その課題を解決しようという意欲にあふれた生徒 ・学ぶこと・知ることの楽しさを見つけないと強く願う生徒		
3 現状の分析	【教務部】 ○学習指導、採点業務等における情報機器活用環境を整備したことによる利便性の向上。 ○教務上の諸手続きのいくつかについて再設計し、より合理的なものとなっている。 ▲学習到達度に応じた学習支援環境整備。 ▲生徒の実態、ニーズに応じた選択科目の設定。 【生徒指導部】 ○生徒との面談や各アンケートからの情報収集、学年・生徒指導・教育相談との連携による組織対応や情報共有など積極的な生徒指導を行い、問題の早期発見・早期対応に繋げている。 ▲生徒が抱える問題は多岐にわたり、より一層職員間の連携や情報共有など個に寄り添った対応が組織として必要になってくる。				

	【教育相談部】 ○生徒の心の自立支援のための寄り添い・支援ができています。 ・早期発見・早期対処するための組織的対応、職員間の情報共有と共通理解、ＳＣ・外部機関への繋ぎ。 ▲家庭への情報発信が効果的に為されておらず、家庭との連携（保護者の悩みや相談への対処）が不十分な場面があった。 【進路指導部】 ○探究活動の成果を、学校型推薦および総合型選抜で生かしている。 ▲幅広い生徒層が入学してくるため、上位層と下位層の乖離。 【特別活動部】 ○多くの生徒が、学業だけでなく行事や部活動にも熱心に取り組むことができています。 ▲ボランティア活動の大切さを学ぶ機会が十分に提供されていない。 【保健厚生部】 ○アンケート結果により、防災安全・健康管理については、生徒・保護者共に高い評価を得ている。特に、熱中症・コロナ対策では、各教室にＣＯ２モニターを設置した上で、エアコン・扇風機・換気扇の活用の仕方を様々な角度から検討した。また、地震や台風などの対応について、３回以上の命を守る訓練やＬＨＲの時間を活用して防災に関する机上訓練を行うなど、分掌としても丁寧に計画を立て、敏速に実行していることが結果となったと思われる。 【学年会】 ○Metamojiを活用した教材の提示により、自宅での学習支援の一環とすることができた。今後、より充実・浸透させていく必要がある。
4 学 校 の 抱 え る 課 題	【教務部】 ・学力上位者の他地区への流出。 ・それぞれの学力到達度に応じた学習支援態勢の不備。 【生徒指導部】 ・学校内だけでなく学校外での事案対応が増えている中で、警察や外部機関との連携をより一層図っていくことが重要である。 【教育相談部】 ・生徒間の良好な人間関係構築・コミュニケーション不足に対する支援。 ・増加する進路実現・学業不振に係る不安・悩みへの寄り添い。 ・家庭との連携・家庭への情報発信。 【進路指導部】 ・地区上位層の岐阜地区および私立高校への流失の危険。 ・難関大学合格者増加のための教員の指導力向上。 ・難関大学を目指す生徒の育成。 【特別活動部】 ・ボランティア活動の大切さを学ぶ機会の提供をいかに行うか。 【保健厚生部】 ・清掃に関して、アンケート結果では生徒・保護者共に幾分か評価は高くなっていたが、更にアイデアを絞り、清潔できれいな校内にしたい。
5 今年度の具体的な重点目標	(１) 生徒一人ひとりのコミュニケーション能力や課題解決能力を育成する。 (２) 国際的な素養を身に付け、多様な価値観を認めあえる人材を育成する。 (３) 確かな学力とともに、勤労観や職業観を涵養し、自分の将来を設計できる能力を育成する。

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
6 評 価 項 目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
1 「勉強する関高生」 “Study hard!”	①国際的な、あるいは地域のリーダー養成に実績のある難関大学への進学を可能とする指導を充実させます。	①国公立大学合格率50%以上。難関国公立大学合格20名以上。	【教務部】 ・教務部、学年部で連携しての科目・コース選択支援。 【進路指導部】 ・共通テストにおいて、生徒は概ね実力を発揮することができた。	A B	○生徒の進路希望、実態に応じた選択ができた。 ○早い段階からの進路説明会等で生徒の意識を高めることができた。	B
	②キャリアプランニング能力を高めるために進路行事を幅広く実施し、生徒が自己実現できる力を養成します。また、特色ある教育課程のもと、生徒の多様な進路希望実現のための学力向上を図ります。	②1年次生の進研模試偏差値65以上50名。2年次生の進研模試偏差値65以上30名。3年次生の全統模試偏差値65以上20名、55以上100名。	【教務部】 ・外部コンテンツを活用しての、学力到達度に応じた学習支援態勢の構築 【進路指導部】 ・進路講演会(全学年希望者対象の社会連携セミナー「さくら塾」や進路講演会、進路説明会等を実施した。	B A	○導入への環境整備を行った。 ▲効果的な実用に向けての職員の研修、活用態勢の確立。 ○生徒の志望や学力層に応じた進路行事を行い、キャリアプランニングを意識した指導を継続する。 ○2年次対象に難関大学入試対策講座を開講し、早期から上位大学を目指す指導ができた。 ▲上位層育成のための情報共有・指導を学校全体で行うための方策を検討する。 ▲中間層を上位層へ押し上げ、また下位層の低下を押しとどめる各教科の丁寧な指導と学年の連携を図る。	
	③大学入試の多様化や新学習指導要領に対応した、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を伸ばすための授業改善に努め、主体的に学習に取り組む姿勢を養います。	③校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価80%以上。	【教務部】 ・授業研究・評価の実施 ・コロナ後を見据えての、考査受験態勢、評価の在り方の整備 【進路指導部】 ・校内生徒アンケート結果：進路情報を示し生徒の可能性を引き出そうとしている(91.6%)、進路志望に沿った指導がで	A B A	○若手教員の資質向上に資することができた。 ○受験態勢、評価の在り方についての環境が整備できた。 ▲生徒、職員への十分な浸透。 ○校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価は高かった。	

			きている(87.3%) ・一方、保護者からは、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをもっとしてほしいとの意見がある。 ・「関高進路だより」を定期的に発行した。 【図書視聴覚部】 ・図書館の蔵書の充実 ・LHRや国語の授業を利用して、本の紹介などを行い生徒の。知的好奇心を刺激できた	B A A A	○進路だよりを発行し進路意識の高揚を図るとともに、多様化する大学入試に関する情報を生徒及び保護者へ提供した。 ▲保護者への情報発信がコロナ禍のため半減しているため積極的に行う。 ○予備校等の難関大学の入試問題研究会などへの教員の参加を増やすことができ教科指導向上を図った。 ▲予備校実施の大学入試検討会等への参加をよびかけ進学指導力を向上させる。	
2「マナーの良い関高生」 “Be polite!”	①教職員の声かけと生徒会活動が一体となることで、「時間」「約束」を守り、「挨拶」「感謝」を大切にしたい行動の具現化を図ります。	①遅刻数、欠席数、携帯使用マナー違反の減少傾向を維持。	【生徒指導部】 ・生徒が主体的に判断・行動し積極的に自己を生かして行動できるよう、日常的な教職員の声かけや生徒理解に努める指導を行うことができた。 ・MSリーダーズや風紀委員による交通安全啓発活動やヘルメット着用推進活動の発表を行った。 ・昨年から比べると遅刻・欠席が増加したことは残念である。	A A B	○身だしなみに関しては学校評価アンケートでも高校生としてふさわしいものであると、91.2%の高い評価を得た。 ○様々な活動から学びを推進し豊かな人間性を育み、自己肯定感を高める。MSリーダーズや風紀委員が県や警察、地区交通安全協会と連携して啓発活動やヘルメット着用推進活動の発表を行った。 ▲2年生での欠席、遅刻が大幅に増加した。勉強や対人関係など理由は多岐にわたり、一人一人に寄り添った指導や家庭との連携をより一層図っていく必要がある。	
	②安全・安心な学校生活を送るために、生徒の心身の健康を支援する環境づくりと家庭と	②保健室、教育相談だよりを生徒・保護者あてに月1回程度発行。いじめアンケート・	【生徒指導部】 ・いじめアンケートを3回、いじめ防止等対策検討会議を4回、教育相談会議を週一回実施した。	A	○生徒との面談や教職員間の連携・情報共有を密にし早期発見・早期対応ならび	

	の密な連携をします。	いじめ防止等対策検討会議を年3回実施。心のアンケートを毎月1回実施。	【教育相談部】 ・「心のアンケート」を毎月実施し、生徒個々の実態把握・理解に努めた。不安や悩みを抱える生徒・保護者に対してはスクールカウンセリングにも繋がった。 ・外部機関との連携を図り、学校全体で組織的に対応した。 ・教育相談日より、計画通り発行できなかった。 【保健厚生部】 ・保健委員が毎月テーマを決め、保健日よりと掲示物を作成し、保健教育を行なった。	B B B A	に組織での対応に努め家庭や外部機関との連携を図った。 ○生徒の心の自立支援 ・早期発見・早期対応するための組織的対応 ・職員間の情報共有と共通理解 ・SC・外部機関への繋ぎ ▲生徒への情報発信 ▲家庭(保護者)への情報発信・情報共有 ○毎月発行した。 ○教室掲示用も一部作成し必要時には、HRTに指導していただいた。	
	③学校の教職員、生徒、保護者、地域の方々の連携を深め、教育活動を展開します。また、ホームページ、広報誌、回覧板等を活用して、地域に情報を発信します。	③PTA役員会、保護者懇談会、地域の声によって評価。	【渉外部】 ・PTA総会を分散参集にて実施。校内スタジオからHR教室にオンライン配信し、総会後は学級懇談会を実施。総会資料のHP掲載。 ・関高PTフォーラムを役員と職員のみ参集し実施。講演録画のオンデマンド配信。 ・高P連会報にて本校PTA活動報告を掲載、保護者懇談にて配布。	B A A	○NEWSレターでの情報発信 ○PTA総会の分散参集、関高PTフォーラム講演会配信などコロナ禍における新しいかたちとしてPTA活動を推進できた。 ▲HPの有効活用を積極的に進めることが必要。	
3「汗を流す関高生」 “Work hard!”	①生徒が生徒会活動やFRHに関わる活動を経験し、様々な行事を主体的に運営できるよう、支援をします。	①校内生徒アンケート「協力して取組む」や「お互い認め合う」といった項目の肯定的評価80%以上。	【特別活動部】 ・行事やその他の活動に当たっては、生徒の思いを理解し大切にして作り上げていくという意識を持って取り組んだ。 ・コロナ禍での安全な行事運営が求められたこともあり、教員主導の面も多くあったが、適宜生徒とコミュニケーションを図ったり、生徒の思いを聞く機会を設けたりして主体的な取り組みの支援を行った。 【図書視聴覚部】 ・図書館だよりなどの発行など、活発	B A A	○関高祭では、制限のあるなかでの行事運営であったが、そのなかで自分たちができることは何かを考え、応援活動やクラス活動・委員会活動などに主体的な活動がみられた。 ▲今後も、学校行事等において生徒が主体的に取り組める環境づくりに努める。	

			な委員会活動が行えた。 ・図書だよりは、県知事賞を受賞できた。 【3年学年会】 ・最高学年として体育祭・文化祭の学校行事や部活動等、特別活動をリードし次の学年に引き継いだ。	A A	○学年団のメンバーで様々な業務を協力して円滑に行うことができた。焦ったりぶれたりすることなく生徒に向き合えた。 ▲さらに高い目標を持ち、学習や部活動に取り組む。 ▲コロナ感染防止によりやむを得ないが、学校行事の際に保護者の方に来校していただきましたかった。	
	②部活動への積極的な参加を促し、集団における個の役割を自覚させると同時に、個を活かす集団のあり方を学び、協調性と個性を尊重する態度を養います。	②部活動の登録率85%以上。	【特別活動部】 ・新入生オリエンテーションの一環として、4月に部活動紹介を行い、新入生の部活動加入を促した。 ・限られた活動時間の中でも有意義な活動となるように、時間の使い方や活動内容を検討し、また、部員同士が互いの立場や考えを尊重しつつ、みんなが生き生きと活動できるような集団となるよう各部活動において指導した。	A A	○今年度の部活動加入率は86.6%であり、積極的な加入がみられた。 ○活動内容を検討・工夫することで、多くの部活動が例年と遜色ない成果を上げた。 ▲今後も、生徒が生き生きと活動できる場となるよう、活動内容の検討・工夫を重ねていく必要がある。	
	③FRH活動や異校種間交流の機会を通じて、地元の様々な催しに参画し、積極的に校外で関高生が活躍する機会をつくります。	③校外活動で実績を挙げた生徒数のべ300名。	【研究推進部】 ・地域連携は一層進み、様々なイベントやコンクール等でめざましい成果を挙げた。	A	○地域イベントの充実。一般市民との協働の増加。 ▲感染症対策と活動の両立。今後の活動の継続。	
4「グローバルな関高生」 “Be global!”	①1年次で地域の活性化に取り組み、2年次でSDGsを扱う課題解決型研究において、生徒の視野を大きく広げる支援をします。	①各学年のHR・学年発表会の実施。全校発表会では2年次生はAll Englishで発表。	【研究推進部】 ・校内発表会以外にも、各種コンクールや地域向けイベントで研究成果を発表することができた。 【研究推進部・1年学年会】 ・個人で課題を設定し、夏季休業中の関ジモト大学参加や外部団体からの情報収集、現状認識に努めた。その後自らの提案や課題解決法を模索し、レポートにまとめる活動をした。 ・10/11, 18, 25に各HRで経過報告	A A A	○生徒全体の研究水準・発表内容の向上。 ▲感染症対策と活動の両立。今後の活動の継続。 ○生徒はSDGsと興味・関心を結びつけて個人研究テーマを設定し、身近な問題について考察を深めることができた。 ▲外部講師による講演会の	

			会、11/15にクラス予選会、11/29に学年選考会を実施。代表発表者は3/10に向けてのプレゼン準備、他の生徒はポスター作成の活動を実施中。 【研究推進部・2学年会】 ・HR内の各グループが主体的に課題設定をし、夏季休業中には関ジモト大学への参加や外部団体への情報収集などを通じて現状認識に努めた。 ・その調査を踏まえ、自ら実行可能な課題解決法を探り、英語ポスターもしくはプレゼンテーションを作成している。	A A	時期と生徒の活動時期に齟齬がある等、調査研究や資料作成で活動しにくい状況があった。 ○学年テーマ「くらし・いのち・きずなのSDGs」に関して、グループで課題設定をし、その解決に向けて主体的に探ることができた。 ▲実施調査を十分にできないグループもあり、調査研究や資料作成で苦労した。
②語学の4技能を高め、グローバルに活躍できる人材を育成し、さらにその力を活かす機会として国内外の研修や地域の催しへの参加を促します。	②語学の力を活かす活動の参加者の増加。	【図書視聴覚部】 ・充実した活動ができていると思う。 【研究推進部】 ・充実した活動ができていると思う。 フィリピンオンライン留学を通じ、コロナ禍における国際交流を行うことができた。 【英語科・1年学年会】 ・日頃より授業で扱う題材を基にして、自分の考えを発信する機会を設けている。input-orientedのみならず、output-orientedも意識して授業構成を工夫し、パフォーマンステストで発信能力（話すこと、書くこと）を評価することで、生徒に意識付けをし続けている。 ・英語キャンプや英語スピーチコンテスト、英語プレゼンテーション大会への参加を促し、特に9/10に開催された英語スピーチコンテスト美濃地区予選では、本校1年次生が地区2位の好成績を収め、県大会へと出場した。 【英語科・2学年会】 ・県主催のスピーチコンテストや、学校主催のフィリピンオンライン留学への参加により、語学を活かして活動す	A A A A	▲英語の授業、特に論理・表現とのつながりができるとよい。 ○パフォーマンステストで各単元の出口を設定したことで波及効果をもたらし、受信能力（聞くこと、読むこと）の育成にもつなげることができた。 ▲国内外の研修や地域の催しへの参加、外部検定試験の受験呼びかけが不十分であったと思われる。 ○昨年から継続し、すべての生徒が英語力を高めている。	

			ることができた。 ・授業中の英語の使用や、パフォーマンステスト、またFRH活動の報告を英語で行うなど、日常的にすべての生徒が英語を活かした情報発信を行った。	A	▲対外的なイベントに関しては、参加者が限定的で、まだ少ない状況である。	
	③地域の方々、卒業生、保護者等、多様な人材を活かした講演会や交流会を実施します。また広報活動を活性化させ、講演会・交流会を地域の方々に開放します。	③各講演会・交流会のオンライン参加を含めた外部参加者100名。	【図書視聴覚部】 ・5年ぶりに芸術鑑賞会を開催できた。 【研究推進部】 ・感染症対策に留意し、講演会やセミナーなどの各種イベントを行った。 【研究推進部・2学年会・その他】 ・中学生模擬国連・関ジモト大学・ミニ文化祭・LGBTQ啓発活動等、地域と連携し、地域住民が参加できる催しを多数開催した。	A A A	○参加者による質疑応答の活発化。 ▲感染対策と活動の両立。今後に向けた活動の継続。 ○地域が生徒の活躍を目にする機会と、地域が生徒を育てる機会を作り出し、生徒の学びの意欲向上に結びついた。 ▲感染症対策で活動内容や人数に制限や配慮が必要だった。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和5年1月31日

13 来年度に向けての改善方策案

【評価1】 ・コロナ禍により、学校行事への親の参加が難しい中、運営協議会委員として文化祭を見る機会があった。生徒の生き生きした活動風景や学校の良い雰囲気を肌で感じる事ができた。他の保護者の方にも見てもらいたかった。 ・文化祭を見学してどの発表も大変すばらしいものであった。特に、演劇を鑑賞し、生徒が主体的に活動していることがよくわかった。文化祭が伝統ある行事であることが理解できた。 ・コロナ禍での学校運営に様々な工夫をして取り組んでいただいていることがわかった。特に文化祭では、様々な制約の中で十分な時間をかけて素晴らしい発表ばかりであった。 【評価2】 ・PTA活動を進めていく中で研修会をオンラインで配信した。良い内容の研修会であったので多くの保護者が視聴できて良かった。	【教務部】 ・生徒の実態・ニーズに応じた選択科目の見直し。 ・生徒の進路希望・実態に応じた科目選択タイプの整備。 ・到達度上位者に対しての、より高みを目指す進路指導。 ・行事の精選（職員に対しては会議や研修、生徒に対しては教育課程外の行事）。 【生徒指導部】 ・生徒自らが主体的に行動し自己肯定感や達成感を高められ、地域や社会とも積極的に関わり心豊かな人間性を育むマナー指導やモラル指導を推進する。 ・家庭や地域、警察や外部機関との連携。 【教育相談部】 ○問題に結びつく「芽」の早期発見・早期対応への組織的アプローチ。 ・職員間の情報共有・共通理解。 …学年主任・HRT・分掌等との連携の下、迅速な対応に向かえる体制づくり ・SCの効果的活用・面談週間の効果的設定・職員研修会の実施・外部機関との連携 ○家庭との連携。 ・保護者への情報発信。
---	--

・保護者として、進路達成に向けて一心に努力している姿を目にする。良い環境、雰囲気の中で頑張っていると思う。

【評価３】

・近隣地域の方々に関高校の魅力を如何に伝えていくかの工夫が必要である。
・生徒に対して「こうあって欲しい」と集中的に指導してはどうか。特に、失敗しても立ち直れるような、困難を乗り越えていく精神を身に付ける指導が大切ではないか。
・ゼロから１を創り上げることは、１を２にするよりずっと難しいが、それをやり遂げる人材が望ましい。大きな事でも小さな事でも自主的にやっていることを褒めてほしい。

【評価４】

・探究活動がうまくいっていない学校が多い中で、関高校の探究活動はうまく回っている。この探究活動を大学受験や大学での学びに生かしてほしい。

【評価５】

・関高校は、昨年度１００周年記念事業を終えたが、その後学校がどのようなことを目指し、どのように変わったのか。→未来のリーダー育成のために様々な活動を行っている。例えば、自転車運転時のヘルメット着用や夏季登校時における服装の軽装化など、生徒が自ら考えて行動できる機会や地域との連携をベースに様々な探究活動を行っている。また、コロナの影響で海外研修や屋久島研修は実施していないが、オンラインでの海外研修としてフィリピンとの交流会を行っている。

【評価６】

・小中高ともに不登校の子どもが多くいると聞いている。特に発達障がいなどを原因とした不登校の子どもに対して高等学校はどのような対応をしているのか。→発達障がいなどの課題に対応するために、岐阜県の公立高等学校では、巡回通級が来年度より本格的にスタートする。

【評価７】

・高校説明会やオープンキャンパスなどで、生徒が中学生に向けて発表する機会

【進路指導部】

・進路指導重点事業の指定を受けて、受験に対応した教員の教科指導力および小論文指導向上を目指し、予備校講師による指導方法を各教員が学ぶ研修を設ける。
・令和７年度大学入学共通テストに向けた「情報」の研究。
・探究活動を生かして国公立大学の学校推薦型および総合型選抜合格者を増やすための分析、研究。

【特別活動部】

・コロナウイルスや毎年の異常気象、働き方改革などにより行事の縮小や見直しが求められる中で、安全面に配慮しつつ、生徒の思いや主体性を尊重した行事の計画・運営を進めていくために、先を見通して余裕を持った実施計画を立て十分な議論を保障する。
・多様性を理解したり、ボランティアの大切さについて学ぶ機会ともなる関特別支援学校との交流会や手話講座、関高掃除隊の実施について検討する。

【保健厚生部】

・新型コロナ感染症流行のために控えていた保健講話を計画する。（専門家による正しい知識を得て、現在の生活や今後の人生に活かせるようにするため）
・清掃については、細かいチェック項目による清掃点検を厚生委員により実施し、更なる校内衛生向上に活かす。

【渉外部】

・保護者アンケートによると質問項目への「分からない」との回答が目立つ。ＰＴＡ総会や学級懇談など、保護者が来校する機会はあったものの、学校行事を直接参観する機会が少なく生徒の姿が見えづらい状況があると考えられる。来年度は、感染症対策と両立しながら保護者来校の機会を設定できるとよい。ＰＴＡ総会は、今年度と同様に分散参集による実施がよい。

・関高ＰＴフォーラムは、保護者案内し参集実施する予定。また、渉外部と研究推進部の協働企画とし、生徒の参加希望者を募り、保護者・生徒と共に講演に参加できる機会を設定する。ＰＴＡ本部役員に相談し今年度県ＰＴフォーラムで講演した講師に依頼。

・文化祭初日ＰＴＡバザーの見直しが必要。食品バザーは、キッチンカーを導入するなど現実的な実施方法と、密を避けるチケットの事前販売方法を考えたい。

・働き方改革などにより行事の見直しが求められている。３年続けて中止したＰＴＡ行事の「草刈りボランティア」は、効率性の課題と中止による環境整備に支障がなかったことから廃止とする。「保護者向け進路研修会」は、休止とする。

・今年度より広報部から渉外部に分掌を改めたことから、保護者懇談や卒業式の案内は教務部が担当した方がよい。

・入学式時のＰＴＡ入会式は従来の方でよい。

【１年学年会】

・学習支援や進路指導をより効率的に行うため、学年間や各分掌との連携のうえ行事および提示資料等の精選、システムの構築が必要である。

・withコロナ、postコロナの行事のあり方を模索し、生徒が活躍できる場を設定する。

【２年学年会】

・学習支援や進路指導を効率に行うことができるシステムの構築、業務内容の見直し・

を持つべきである。→関高校の高校説明会では生徒が生徒会活動や探究活動について説明する場を設けている。

【評価 8】

・薬物乱用、オーバードーズ、携帯依存、ゲーム依存が増えている。また、中学校での非行も増えてきているのが現状である。今後、このような子どもが高校に入学してくるという意識も必要である。

精選による時間の確保。

- ・コロナとの共存下における活動内容の見直し・精選、新たな形式による活動の模索
- 【3年学年会】
- ・新型コロナウイルス感染症対策を十分行い、保護者や地域の方に来校していただける体制を整える。
 - ・身だしなみや挨拶、掃除といった当たり前のことをしっかりと行い、校外の活動に積極的に参加し知見を広げて、人間的成長を促していく。